



大宜見洋文 議員

子育て支援事業に 作業療法士との 連携を

答 活用の可能性を検討していく

問 作業療法士の高度なスキルが保幼小中学校の子育て支援に有効である。本町の取り組みに導入は可能か。

副町長 子どもの居場所づくりに関する講演会で、作業療法士のスキルが支援を必要とする子どもたちに有効であることが明らかになった。事例報告された岡山県の取組は、学童クラブとの連携から始めている。本町ではさらに調査を進め、作業療法士の活用の可能性を検討していく。

問 現在、県内で作業療法士が導入されている取り組みはあるか。

こども課長 金武町のNPO法人が始めている。保育園や小学校、特別支援学校を回り、巡回相談を受けている。障がいのある無にかかわらず、どんな生徒にも望んだ教育が受けられる社会を作る教育（インクルーシブ教育）に取り組んでいる。それについて社協と勉強会ができないか検討している。



子どもの居場所づくり講演会

問 貧困世帯の子ども支援事業の実施から半年たち、成果はあるか。

こども課長 グループに入れない子が、自ら発言し学習に参加している。自ら考えようとする力が付いている。元氣ROOMに通う子のほとんどは、食生活が乱れていたが、長期間しっかりと食育も含め食事の対応している。その結果、身長と体重が増え、野菜嫌いが直った。自分で調理ができ

るようになったなどの成果が挙げられる。

問 貧困世帯の子ども支援事業から見えてきた課題はあるか。

副町長 課題は、小中高校の連携をさらに深めて、包括的に子どもを支援する体制づくりである。

問 高校は県の管轄である。どのように対応していくか。

こども課長 市町村との連携が必要だという声が高校側からある。真和志高校には担当が出向き南風原出身の子どもの状況を聞いた。不登校気味、高校中退の可能性があるという情報を得た。南風原高校にも出向いて調査し、どのような連携が可能か検討していく。

こんな質問もしました

- 特別な支援を要する児童・生徒への対応を
- ICT教育は
- 町立小中学校の図書館司書は
- 教職員の職場環境改善を
- 農福連携を
- 宮平地区農地整備事業の残金（余剰金）は
- ウガンヌ前公園整備事業は